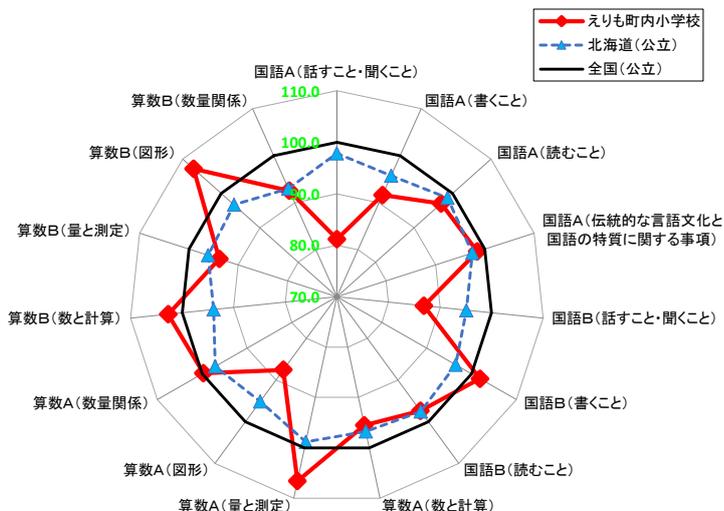


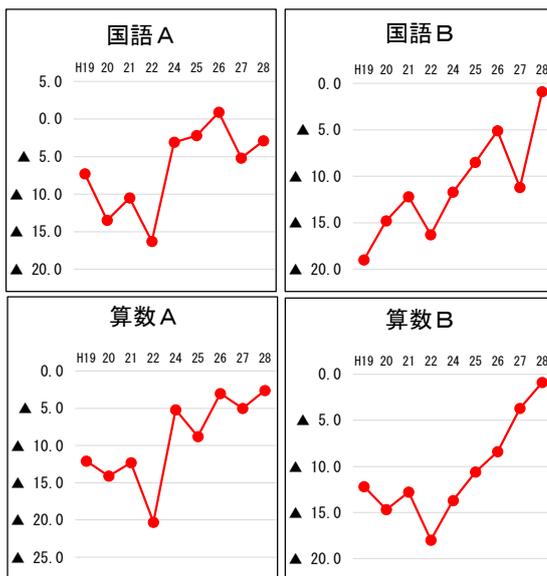
■えりも町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:5、児童数:42名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

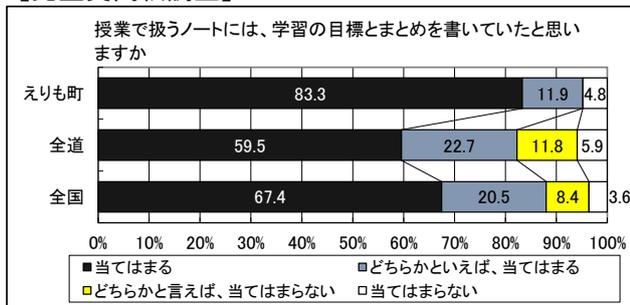


【平均正答率の全国との差の推移】

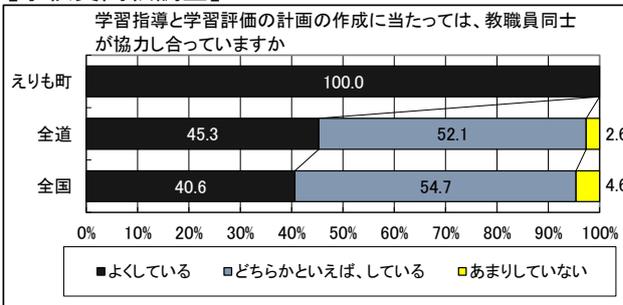


※「平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全道を上回っている。 ○ 国語Bでは、「書くこと」で、全国を上回っている。 ○ 算数Aでは、「数量関係」で、全道を上回っており、「量と測定」で、全国及び全道を上回っている。 ○ 算数Bでは、「数と計算」、「図形」で、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導と学習評価の計画の作成に当たって、教職員同士が協力し合ったことにより、日常の授業改善が図られ、すべての教科で、前年度と比較して、全国との差が縮まったと考えられる。 ○ 板書とノートの連動、まとめの位置付けなど、えりも町4つの方策に組織的に取り組んだことにより、授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童質問紙	○ 「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。	
学校質問紙	○ すべての学校が、「学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っている」と回答している。	

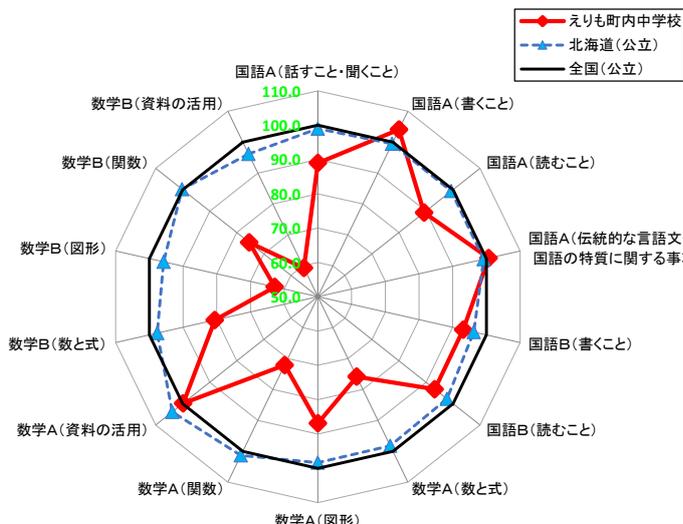
【えりも町の学力向上策】

- ◎ えりも町4つの方策(学習規律、板書とノートの連動、まとめの位置付け、研修交流)による授業改善
- ◎ 数値目標を形骸化しない日常の授業における「凡事徹底」
- ◎ 町独自による学習指導充実のための臨時採用教員の配置
- ◎ 実物投影機等ICT機器を活用した授業改善
- ◎ 小・中・高の接続・連携を意識したキャリア教育の充実

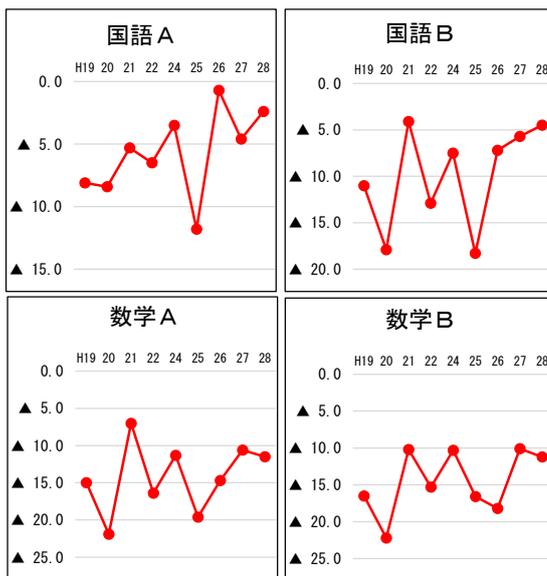
■えりも町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1、生徒数:43名)

【教科全体の状況】

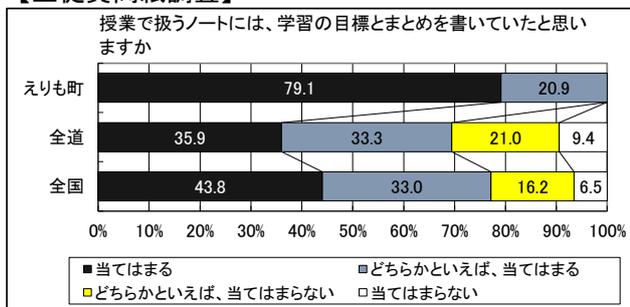
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



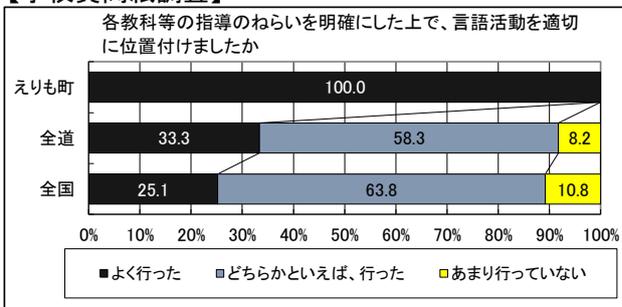
【平均正答率の全国との差の推移】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全国を上回っている。 ○ 国語A・Bでは、前年度と比較して、全国の平均正答率との差が縮まっている。 ○ 数学Aでは、「資料の活用」で、全国とほぼ同様になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けたことにより、生徒の主体的・対話的な学びが構築され、国語A・Bで、前年度と比較して、全国との差が縮まったと考えられる。 ○ 板書とノートの連動、まとめの位置付けなど、えりも町4つの方策に組織的に取り組んだことにより、授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	○ 「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。	
学校質問紙	○ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切によく位置付けた。	

【えりも町の学力向上策】

- ◎ えりも町4つの方策(学習規律、板書とノートの連動、まとめの位置付け、研修交流)による授業改善
- ◎ 数値目標を形骸化しない日常の授業における「凡事徹底」
- ◎ 町独自による学習指導充実のための臨時採用教員の配置
- ◎ 実物投影機等ICT機器を活用した授業改善
- ◎ 小・中・高の接続・連携を意識したキャリア教育の充実